

発行所 株式会社FPシミュレーション 編集発行人:税理士 三輪 厚二

大阪府中央区平野町3-1-10 Tel :06-6209-7678

Fax :06-6209-8145

◆ 棚卸の単価

Q : 会社設立後、初めての決算を迎えます。棚卸は、決算手続きの中で最も重要な事項とありますが、棚卸の単価は売値でしょうか、それとも仕入値でしょうか。

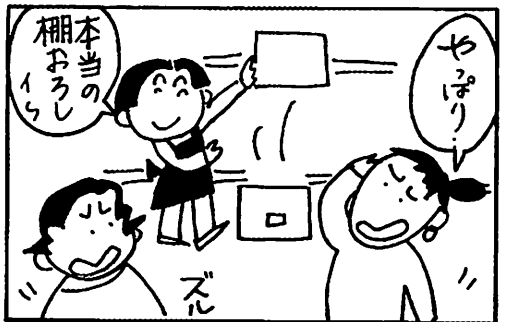
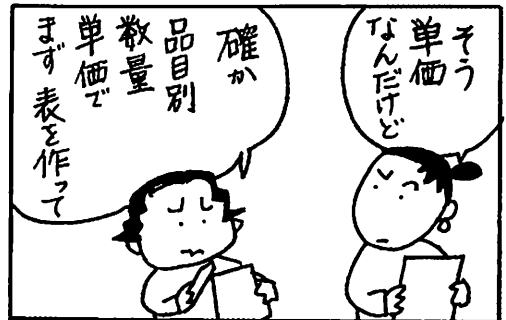
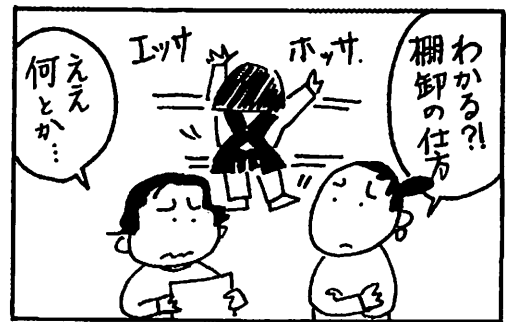
A : 棚卸の単価は仕入値を基にします。

【解説】

棚卸資産とは、商品、製品、材料、仕掛品等をいい、棚卸資産の価額を決めることは、当期の収益に対応する原価を決め、来期の収益に対応する棚卸資産とに区分することです。

棚卸の単価は仕入値（取得価額）を基にしますが、その仕入値の算定について、税法では、原価法（8種類）と低価法の2種類があります。原価法は、実際に購入するため、あるいは製造するためにかかった対価で評価する方法です。これに対し、低価法は原価と時価のいずれか低い方をとって評価する方法です。選択届出をしなかった場合には、最終仕入原価法による原価法によることとされています。

ところで、棚卸は、商品、製品、材料などの「棚卸資産」を棚卸表の作成により行いますが、棚卸表は、まず品目別に調査した数量を記入し、次に単価（仕入値）を記入して品目別の計算を行い、その合計を算出し棚卸高とします。この際、棚卸もれになりがちなのが、外注先や得意先、委託販売先への預け品です。また、仕入伝票が後回しで品物が先に入ったり、その逆のケースなども注意が必要です。



KIMIYO・I